

定期作況報告

(第3号 令和2年7月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

令和2年6月下旬から7月中旬までの気象は次のとおりである(表1)。

6月下旬: 平年に比べて、平均気温は1.8℃低く、降水量は2.0mm多く、日照時間は39.7時間少なかった。夏日(最高気温25℃以上30℃未満)は1日であった。

7月上旬: 平年に比べて、平均気温は0.3℃高く、降水量は9.2mm多く、日照時間は12.8時間多かった。夏日は9日であった。

7月中旬: 平年に比べて、平均気温は0.3℃低く、降水量は34.9mm少なく、日照時間は18.9時間多かった。夏日は6日、真夏日(最高気温30℃以上35℃未満)は3日であった。

表1 気象表

調査項目	6月下旬			7月上旬			7月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	16.1	17.9	-1.8	20.4	20.1	0.3	20.5	20.8	-0.3	19.0	19.6	-0.6
最高気温(℃)	19.9	23.6	-3.7	26.0	25.5	0.5	27.2	26.4	0.8	24.4	25.2	-0.8
最低気温(℃)	13.1	13.0	0.1	15.5	15.7	-0.2	15.2	16.3	-1.1	14.6	15.0	-0.4
降水量(mm)	27.0	25.0	2.0	59.5	50.3	9.2	0.0	34.9	-34.9	86.5	110.2	-23.7
降水日数(日)	5.0	3.5	1.5	5.0	3.8	1.2	0.0	3.9	-3.9	10.0	11.2	-1.2
日照時間(hr)	20.1	59.8	-39.7	67.8	55.0	12.8	81.9	63.0	18.9	169.8	177.8	-8.0

注) 比布アメダス観測値。平年は過去10ヶ年の平均値。

2. 作 況

1) 水稲 平年並

5月20日現在：平年並

事由：播種は平年並の4月15日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より2日遅い5月20日に行った。移植時の草丈、葉数、第1葉鞘高は平年並であり、莖数は平年より0.1~0.3本多かった。苗100本当たりの地上部乾物重は平年より「ななつぼし」で0.26g軽く、「ゆめぴりか」で0.32g重かったが、苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈はいずれも平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：平年並

事由：5月下旬の平均気温および日照時間は平年並であり、活着は良好で生育は順調であった。主稈葉数は平年並で、草丈は平年より1.7~5.4cm高かった。m²当たりの莖数は「ななつぼし」で5%少なく、「ゆめぴりか」で5%多かった。6月上旬から中旬にかけて高温で推移したため、「ゆめぴりか」の幼穂形成期は平年より5日早かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由：6月下旬の平均気温はやや低く、日照時間は少なかったが、幼穂形成期が早かったことと、7月上旬から中旬の最高気温および日照時間は平年を上回ったことから、止葉期は2~4日早く、出穂期は1~2日早かった。主稈の止葉葉数は平年より0.3~0.4枚少なかった。草丈は平年より2.8~4.3cm高かったが、莖数は平年並からやや少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

表2 7月20日の水稲の生育

品種名		ななつぼし			ゆめぴりか			
項目 / 年次		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月.日)	4.15	4.15	0	4.15	4.15	0	
	移植期 (月.日)	5.20	5.18	2	5.20	5.18	2	
	幼穂形成期 (月.日)	6.20	6.24	△ 4	6.19	6.24	△ 5	
	止葉期 (月.日)	7.08	7.12	△ 4	7.09	7.11	△ 2	
	出穂期 (月.日)	7.20	7.22	△ 2	7.20	7.21	△ 1	
	成熟期 (月.日)		9.12			9.11		
	穂揃日数 (日)		9			9		
	登熟日数 (日)		52			52		
	生育日数 (日)		151			149		
移植時	草丈 (cm)	13.0	13.2	▲ 0.2	13.8	12.9	0.9	
	葉数 (枚)	4.0	4.0	0.0	4.1	4.1	0.0	
	茎数 (本)	1.8	1.7	0.1	2.2	1.9	0.3	
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.3	0.0	2.4	2.4	0.0	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.04	4.30	▲ 0.26	4.40	4.08	0.32	
	地上部乾物重/草丈	0.31	0.33	▲ 0.02	0.32	0.32	0.00	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.3	8.2	0.1	8.5	8.5	0.0
		7月20日	10.0	10.3	▲ 0.3	10.3	10.7	▲ 0.4
		止葉葉数	10.0	10.3	▲ 0.3	10.3	10.7	▲ 0.4
	茎数 (本/m ²)	6月20日	506	535	▲ 29	651	623	28
		7月20日	682	748	▲ 66	860	870	▲ 10
	草丈 (cm)	6月20日	44.0	38.6	5.4	39.3	37.6	1.7
7月20日		84.2	79.9	4.3	81.7	78.9	2.8	
成熟期	稈長 (cm)		69.8			66.2		
	穂長 (cm)		16.4			16.3		
	穂数 (本/m ²)		692			805		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		53.9			46.5		
	m ² 当たり粒数 (×千)		37.3			37.4		
	稔実歩合 (%)		95.3			92.2		
	m ² 当たり稔実粒数 (×千)		35.5			34.5		
	同上比 (%)		100			100		
	登熟歩合 (%)		86.1			80.9		
	粒摺歩合 (%)		80.3			78.6		
	屑米歩合 (%)		3.0			3.7		
収量	精玄米千粒重 (g)		22.2			22.7		
	藁重 (kg/10a)		645			610		
	精粒重 (kg/10a)		865			831		
	精玄米重 (kg/10a)		692			650		
	収量平年比 (%)		100			100		
	検査等級 (等)		1下		-	2上		

注1) 平年値は前7カ年の中、平成29年(最豊年)、令和元年(最凶年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm²当たり、床土 N 3.0g, P₂O₅ 7.2g, K₂O 3.0g

置床 N 27.0g, P₂O₅ 34.0g, K₂O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10a当たり、N 8.0kg, P₂O₅ 9.7kg, K₂O 6.9kg, 堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

2) 秋まき小麦 (R1 年播種) 不良

9月20日現在:

事由: 平年より3日遅い、9月18日に播種を行った。

10月20日現在: 不良

事由: 9月18日の播種以降の1週間で60mm程度の降雨があり、土壌表面が固まるクラストが発生した。土壌表面が固くなったため、出芽が阻害され出芽期は平年より8日遅く、また出芽率も60%程度と低くなった。葉数は少なく、草丈は低く、茎数はかなり少なかった。したがって、目下の作況は不良である。

5月20日現在: 不良

事由: 根雪始は平年より7日早く、根雪終は平年より13日早く、積雪期間は平年より5日短い138日となった。雪腐病発病度は平年より低かった。草丈は平年より長い、茎数は平年より少なかった。出芽不良による茎数不足の影響は大きく、目下の作況は「不良」である。

6月20日現在: 不良

事由: 5月下旬は平年並の気温で推移したため、出穂期は平年並となった。5月下旬から6月中旬にかけての降水量は多く、気温は平年並であった。草丈は平年よりやや長い、茎数は平年より少なかった。したがって、目下の作況は「不良」である。

7月20日現在: 不良

事由: 出穂以降の6月中下旬は気温がやや低く、日照時間も少なかったが、7月上旬は、気温および日照時間は平年並となった。成熟期は平年より1日遅かった。稈長、穂長は平年よりやや長い、生育初期からの茎数不足により穂数は平年より約3割少なかった。したがって、目下の作況は「不良」である。

表3 7月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	9.18	9.15	3
出芽期	(月.日)	10.02	9.24	8
出穂期	(月.日)	6.05	6.05	0
成熟期	(月.日)	7.19	7.18	1
越冬茎歩合	(%)	145.0	110.3	34.7
雪腐病発病度		1.9	17.4	▲ 15.5
葉数(枚)	令元年10月20日	3.1	4.6	▲ 1.5
草丈	令元年10月20日	13.2	18.5	▲ 5.3
	令2年 5月20日	43.2	38.1	5.1
(cm)	令2年 6月20日	89.4	83.7	5.7
茎数	令元年10月20日	155	856	▲ 701
	令2年 5月20日	824	1223	▲ 399
	令2年 6月20日	505	617	▲ 112
(本/m ²)				
成熟期	稈長 (cm)	78	74	4
	穂長 (cm)	10.1	8.4	1.7
	穂数(本/m ²)	379	528	▲ 149
子実重	(kg/10a)		612	
同上	平年比 (%)		100	
容積重	(g/L)		839	
千粒重	(g)		42.0	
蛋白質含有率	(%)		9.1	
検査等級	(等)		1等	-

注1) 平年値は、前7か年中、平成27年（最豊年）、平成30年（最凶年、収穫年度）を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より“減”を示す。

3) 春まき小麦 やや良

5月20日現在：やや不良

事由：播種は平年より2日遅い4月20日に行った。播種後の気温が平年より低く経過したことから、出芽期は平年より4日遅かった。5月に入り気温は平年並に推移したものの、草丈および茎数は平年を下回っている。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

6月20日現在：平年並

事由：5月下旬以降の気温は平年並に推移した。出穂期は平年より3日遅れとなったが、草丈および茎数が平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬は、低温寡照であったものの降水量が多く、土壌水分が十分確保できた。7月上旬からは気温が平年並で日照時間も多かったことから、穂数は平年を上回った。穂長は平年よりやや短い、稈長は平年より14cm長く、7月9日の降雨により“中”程度の倒伏が認められた。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表4 7月20日の春まき小麦の生育

品 種 名		春よ恋		
項 目 / 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	4.20	4.18	2
出芽期	(月.日)	5.06	5.02	4
出穂期	(月.日)	6.19	6.16	3
成熟期	(月.日)		7.28	
草丈 (cm)	5月20日	20.1	21.9	▲ 1.8
	6月20日	82.9	83.8	▲ 0.9
茎数 (本/m ²)	5月20日	419	742	▲ 323
	6月20日	791	749	42
成 熟 期	稈長 (cm)	104	90	14
	穂長 (cm)	8.2	8.7	▲ 0.5
	穂数 (本/m ²)	578	487	91
子実重	(kg/10a)		535	
同上	平年比 (%)		100	
容積重	(g/L)		802	
千粒重	(g)		41.4	
蛋白質含有率	(%)		12.0	
検査等級	(等)		2上	-

注1) 平年値は前7か年中、平成28年（最豊年）、平成30年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

4) 大豆 やや良

5月20日現在：

事由：播種は、平年より1日遅い5月20日に行った。

6月20日現在：平年並

事由：播種後の5月下旬は平年並の気温で推移した。出芽期は平年並であった。出芽後の6月上中旬は平年並の気温で推移し、降水量は多かった。主茎長は平年並で、主茎節数は平年並である。したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬から7月中旬にかけて、降水量は少なかったが、気温および日照時間は平年並であった。開花期は平年並であった。主茎節数および分枝数は平年並で、主茎長は平年より長かった。したがって、目下の作況は「やや良」である。

表5 7月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.20	5.19	1
出芽期	(月.日)	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.12	7.12	0
成熟期	(月.日)		9.20	
主茎長 (cm)	6月20日	14.0	12.6	1.4
	7月20日	61.4	54.3	7.1
	8月20日		59.9	
	9月20日		60.0	
	成熟期		60.0	
主茎 節数 (節)	6月20日	3.8	4.1	▲ 0.3
	7月20日	9.6	9.8	▲ 0.2
	8月20日		10.1	
	9月20日		10.2	
	成熟期		10.2	
分枝数 (本/株)	7月20日	6.0	6.5	▲ 0.5
	8月20日		7.1	
	9月20日		6.2	
	成熟期		6.2	
着莢数 (個/株)	8月20日		91	
	9月20日		78	
	成熟期		78	
子実重	(kg/10a)		425	
同上	平年比 (%)		100	
百粒重	(g)		34.8	
屑粒率	(%)		1.9	
検査等級	(等)		2中	-

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊年)、平成30年(最凶年)を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より”減”を示す。

5) 小豆 やや良

6月20日現在：平年並

事由：播種は平年より2日早い5月22日に行った。播種後の降雨により土壌水分が十分であったことから、出芽期は平年より4日早かった。その後の気温が平年並に推移したため、主茎長は平年をやや上回っているものの、本葉数は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由：6月下旬～7月上旬にかけて降水量が多く、土壌水分が十分確保できた。7月上旬からは気温が平年並で日照時間も多かったことから、本葉数は平年並であるが、主茎長がやや長く、分枝数は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は「やや良」である。

表6 7月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.22	5.24	△ 2
出芽期 (月.日)		6.05	6.09	△ 4
開花期 (月.日)			7.25	
成熟期 (月.日)			9.16	
主茎長 (cm)	6月20日	6.2	4.3	1.9
	7月20日	30.9	24.3	6.6
	8月20日		66.6	
	成熟期		72.0	
本葉数 (枚)	6月20日	1.5	1.1	0.4
	7月20日	8.4	8.0	0.4
	8月20日		12.1	
主茎節数 (節)	成熟期		14.1	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.8	4.8	3.0
	8月20日		5.5	
	成熟期		5.8	
着莢数 (個/株)	8月20日		55.0	
	成熟期		58	
子実重 (kg/10a)			375	
同上平年比 (%)			100	
百粒重 (g)			14.1	
屑粒率 (%)			3.1	
検査等級 (等)			2下	-

注1) 平年値は前7か年中、平成25年(最凶年)、平成29年(最豊年)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

6) ばれいしょ 平年並

5月20日現在：

事由：植付けは、平年より1日早い5月8日に行った。

6月20日現在：平年並

事由：植付け後、気温がやや低めに推移したため、萌芽期は平年より3日遅れた。その後の気温が平年並に推移したことから、茎長は平年並である。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由：開花始は平年並である。茎長は平年よりやや長く、7月9日の降雨により“中”程度の倒伏が認められた。上いもの平均重はやや重く、でん粉価は平年をやや上回っているが、上いも数がやや少なく、上いも収量は平年をやや下回っている。

したがって、目下の作況は「平年並」である。

表7 7月20日のばれいしょの生育

品 種 名		男爵薯		
項 目 / 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.08	5.09	△ 1
萌芽期 (月.日)		5.31	5.28	3
開花始 (月.日)		6.23	6.23	0
枯凋期 (月.日)			8.27	
茎長 (cm)	6月20日	31.9	35.5	▲ 3.6
	7月20日	55.1	51.1	4.0
上いも数 (個/株)	7月20日	7.5	9.3	▲ 1.8
	8月20日		10.5	
上いもの 平均重(g)	7月20日	85	77	8
	8月20日		107	
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	2841	3119	▲ 278
	8月20日		4922	
でん粉価 (%)	7月20日	15.3	14.4	0.9
	8月20日		14.6	
収 穫 期	上いも数 (個/株)		10.3	
	上いもの平均重 (g)		107	
	上いも収量 (kg/10a)		4865	
	同上平年比 (%)		100	
	中以上いも収量 (kg/10a)		4339	
	同上平年比 (%)		100	
	規格内いも収量 (kg/10a)		4018	
	同上平年比 (%)		100	
でん粉価 (%)		14.3		

注1) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊年)、平成30年(最凶年)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。